

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き

概況

県内経済は、年初のころに比べ、さらに悪化している。製造業、非製造業や規模の大小を問わず、業績悪化の影響が雇用や賃金面に広がり、これが個人消費の冷え込みをいっそう深刻化させている。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」(2009年4月実施)によると、09年1～3月期の業況判断BSI(全産業)は▲二五・九(前回比▲六・四)と9四半期連続で「悪化」超となり、統計開始(02年7月)以来、最低の水準であった前回(08年10～12月期)▲十九・五)をさらに大幅に下回った。

製造業従事者を中心に、残業や夜勤の原則ゼロ、休日増、今春ベアなし、定昇見送り、賞与減額などに伴う減収や将来生活への不安感の高まりから、県内小売業界では、「消費マインドは一段と冷え込んでいる」との受け止め方。特に、百貨店、スーパー、自動車ディーラーなどでは、売上不振を訴える先が多い。もともと、一部レジャー施設では、「安・近・短」志向の高まりや政府の経済対策による東京湾アクアラインの通行料金引き下げなどから入場者数が増加している先も見られた。

県内新設住宅着工戸数(08年12月～09年2月期)は、金融危機の影響による不動産市況の悪化などを背景に前年同期比▲二一・三%と大幅に減少した。

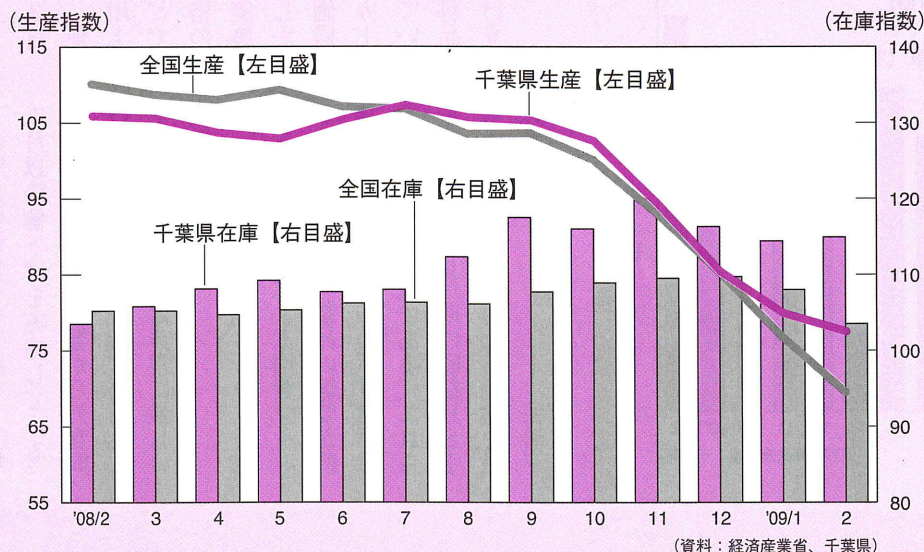
千葉県鉱工業生産指数(季調済)も、輸出関連の製造業を中心に需要の大幅減少から08年11月・九四・四↓12月・八五・四↓09年1月・七九・九と、大幅に低下している。

08年度設備投資実績額(全産業ベース、09年4月調査)は07年度実績比▲二〇・九%の減少となった。内訳を見ると、製造業が同▲一〇・六%、非製造業が同▲二八・七%減少した。期初計画比でも▲四・七%の下方修正となった。

千葉県の有効求人倍率(季調済)は、08年12月・〇・六五倍↓09年1月・〇・六四倍↓2月・〇・五九倍と低下し、雇用情勢は厳しさを増している。2月の新規求人数(原数値)は、主要業種すべてで減少し、全体では前年同月比▲二八・六%と大幅に落ち込んだ。

(古川)

■鉱工業生産・在庫指数 (季節調整済、千葉県2005年=100、全国2005年=100)

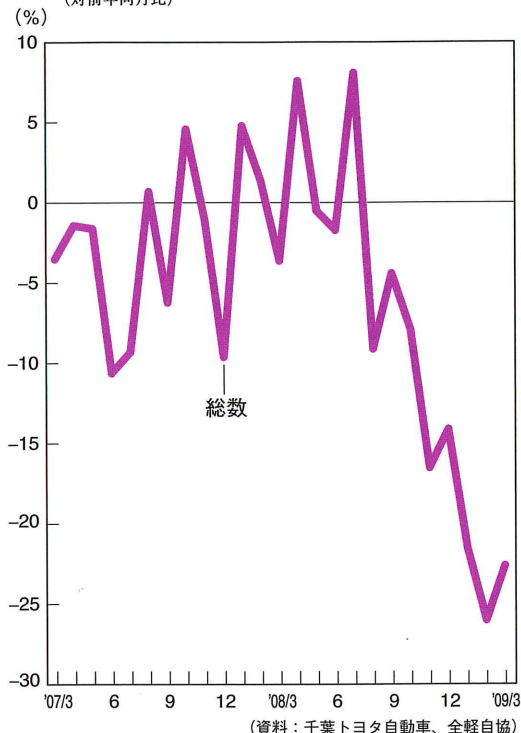


消費関連

最近の個人消費動向を見ると、企業業績悪化の影響が雇用や所得面へ広がり、消費マインドは一段と冷え込んでいる。県内消費関連業界では、09年度中の個人消費回復の見込みが薄いとの見方から、09年度の販売計画を、前年度比▲四～七%としている。厳しい販売環境の中で収益を確保すべく、趣向を凝らした顧客誘致策の実行や、思い切った経費削減に取り組んでいる先が多い。

1～3月期の消費関連業種の業況判断BSIは、小売(▲十五・六)、ホテル・旅館(▲二五・〇)、サービス(▲十七・〇)の三業種すべてで大幅「悪化」超が続いている。県内百貨店では、主力の衣料品や高額商品を中心に売上不振が続いている。また、県内の自動車ディーラーでも、乗用車(軽自動車を含む)の新車販売登録数が1月以降は三か月連続で前年同月比▲二〇%を超える大幅な落ち込みとなり、オイルショック当時とほぼ同水準で、販売地合は非常に悪いという声が聞かれる。(松本)

■千葉県乗用車新車登録台数伸び率(軽を含む)
(対前年同月比)



食料品

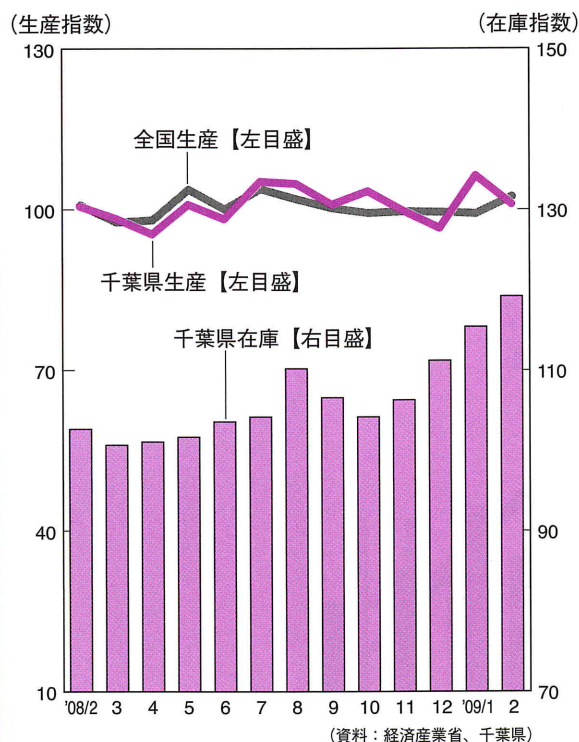
県内食料品メーカーの1～3月期の収益BSIは▲十五・二(前年同比▲三・一)と悪化した。川上の食用油業界や製粉業界などでは、06年秋以降の原料穀物価格の高騰に伴い相次いで値上げを実施し、収益改善を図ってきた。しかしながら、08年秋以降の穀物価格下落により、川下の食品メーカーからは値下げ圧力が強まっている。これを受けて、川上の食料品業界では、09年入りに降値下げを実施している先もある。

食用油メーカーでは、菜種の国際価格下落に伴う販売先からの値下げ圧力の強まりを受けて、09年1月に降値下げを実施している。また、消費減退の影響から外食向け食用油の需要が大幅に落ち込んでおり、収益環境は非常に厳しい状況である。

一方、川下の食品メーカーを見ても、景気悪化による消費マインドの冷え込みから製品の需要が低迷しており、今後の値下げ競争は避けられない状況である。これらを背景に4～6月期の収益BSIも▲十七・二とさらなる悪化を見込んでいる。(古川)

■食料品の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2005年=100、全国2005年=100)



住宅・建設

県内の08年12月～09年2月期の新設住宅着工戸数は、金融危機の影響による不動産市況の悪化などを背景に前年同期比▲二二・三％減少した。

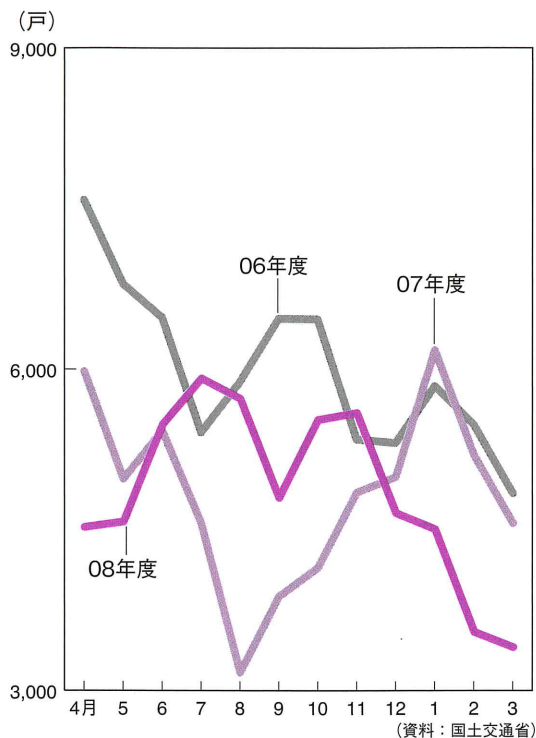
マンションを中心とした不動産市場では、郊外物件を中心とした販売価格の引き下げに加え、住宅取得控除の拡大や低金利などが追い風となり、消費者の買い時感が高まっている。ところが住宅関連業界によれば、千葉県は、都内物件の値下げ販売による県内物件と

の価格差の縮小、首都圏における他地域とのブランド力の差などにより、首都圏ではもともと厳しい供給・販売状況となっているとのこと。雇用・賃金情勢の急速な悪化や、第一次取得者層の減少といった構造的な要因も重なり、08年12月～09年2月のマンション初月

契約率は六五・二％と、好不況の境である七〇％を下回って推移している（初月契約率：12月六五・三％↓1月七一・四％↓2月六二・二％）。

また、1～3月期の県内公共工事請負額は、前年同期比▲十八・八％と大幅に落ち込んだ。（福田）

■千葉県新設住宅着工戸数



機械

県内電気機械の1～3月期生産

BSIは▲五〇・〇（前回比▲二一・四、回答先企業の全十一社が前回比悪化と回答）と、大幅に悪化した。これは、金融危機の影響による世界的な最終需要の低迷を受け、大手メーカー各社が急速かつ大幅な減産による在庫調整を進めているため。

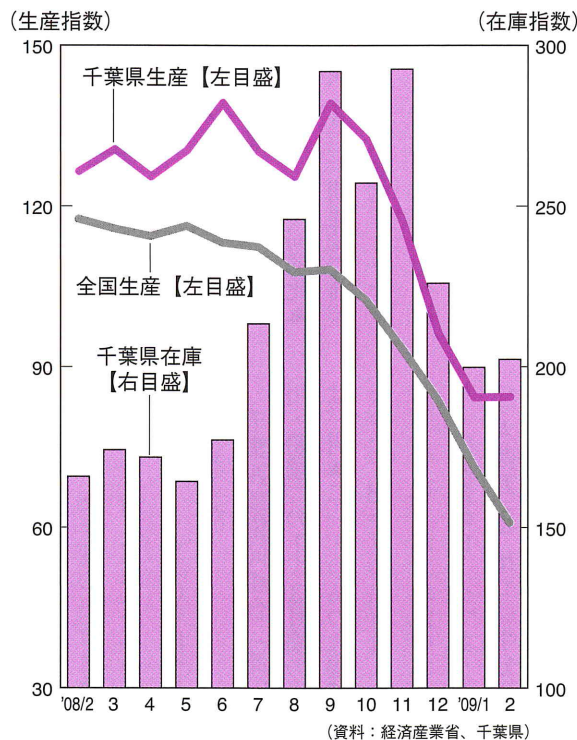
県内一般・精密機械の1～3月期の生産BSIは▲四三・八（前回比▲十六・九）と大幅に悪化した。リーマンショック以降の世界

各国の経済情勢悪化による需要縮小は、年明け以降さらに強まっている。大手メーカーは、業績悪化から生産調整を続けているため、収益環境は今後も厳しいと見る向きが多い。

一方、輸送用機械を見ても、1～3月期の生産BSIは▲四〇・九（前回比▲四・五）と一段と悪化した。国内大手メーカー（自動車やトラックなど）では、北米や欧州などの輸出向け生産において、減産を実施し在庫調整を図っているものの、需要の大幅な減少に追いつかず、生産水準の低下が続いている。（古川）

■機械の生産・在庫指数

（季節調整済、千葉県2005年＝100、全国2005年＝100）



ITソフト

2月の情報サービス業(全国)

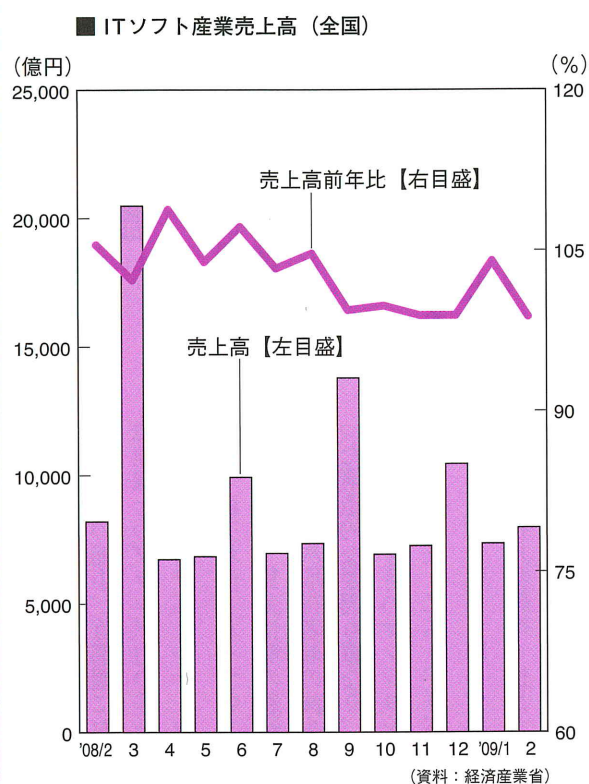
の売り上げは、前年同月比▲一・二%減と二か月ぶりに前年を下回った(08年12月:同▲一・一%減少↓09年1月:同+四・〇%増加)。08年秋以降、金融危機の影響による企業の情報化投資の抑制や、大手銀行のシステム統合案件の収束などで受注環境は悪化している。

県内のIT関連業者約四〇社で構成する協同組合の動向調査(09年3月実施)によると、売り上げ、利益、取引条件などの主要調

査項目において、大半の企業が前年同期比で悪化と回答するなど、県内IT企業の業況は悪化が続いている。

IT業界では、世界的な景気悪化の影響を受け、電機メーカーを中心に4月以降の受注単価の引き下げ要請や、情報化投資の凍結が発生している。県内IT企業では、受注環境の悪化が続くことが確実視されていることから、請負業務以外の自社開発案件に注力し、売上減に歯止めをかけるとともに、経費を圧縮することで前年並みの利益を確保するといった声も聞かれた。

(福田)



窯業・土石

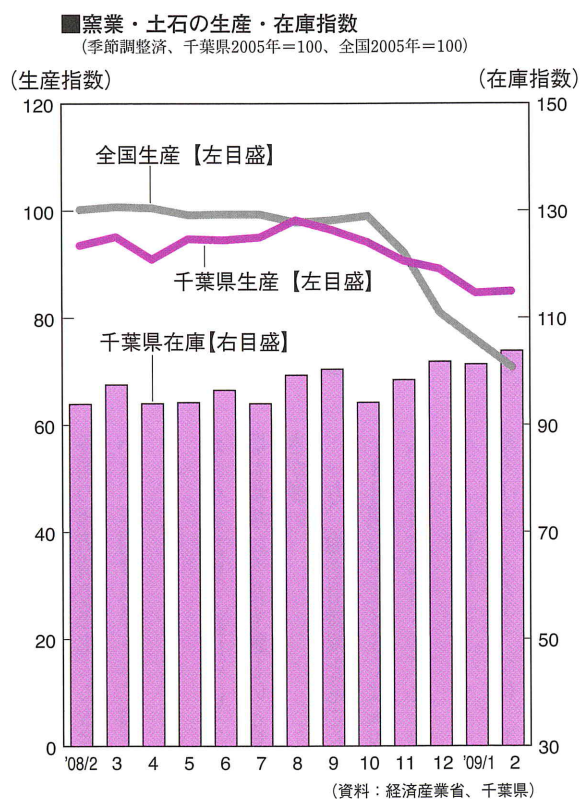
県内の生コンクリート主要協同組合(北部・西部・中央)の1~3月期の出荷量は、前年同期比▲八・三%と、8四半期連続で前年を下回った。景気悪化によりマンションなど不動産開発の中止・凍結が相次いでいることに加え、工場増設やショッピングセンター建設といった企業の建設投資も大幅に抑制されているため出荷量が落ち込んだ。

千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)の1~3月期の出荷量は、同▲二〇・二%と大幅に落ち込んだ。08年度の出荷量は、五一・一万㎡(前年度比▲二五・七%)と、ここ二〇年間で最低の水準となった。

千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋)の1~3月期の出荷量は、同▲二一・〇%の大幅減少となった。08年度の出荷量(六九・六万㎡)は、過去最低の水準となり、出荷量のピークであった97年(一六四万㎡)比では半分以下にまで落ち込んだ。

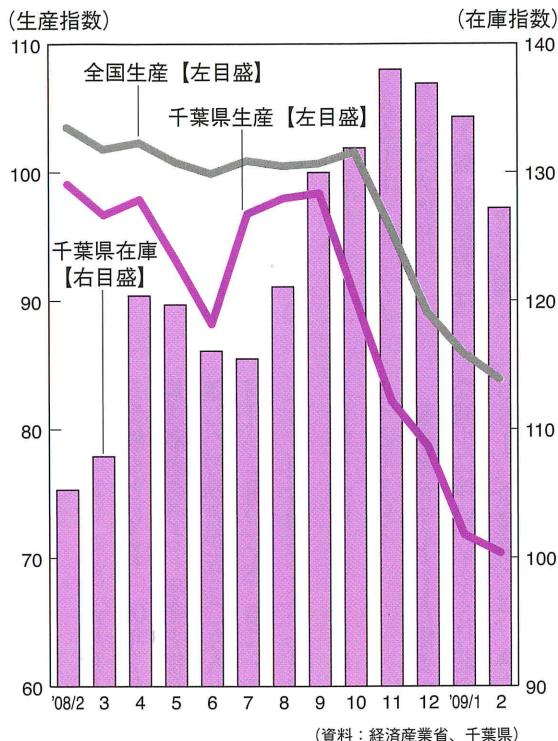
千葉中央協同組合(千葉・市原・袖ヶ浦)の1~3月期の出荷量は、同+三・〇%増加した。

(福田)



化学工業の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2005年 = 100、全国2005年 = 100)



鉄鋼

鉄鋼 石油・化学

1～3月期の県内高炉メーカー二社の粗鋼生産量は、鋼材需要の急速な減退に伴い一部高炉の休止などによる大幅な減産を実施したため、二二・九万t(前年同期比▲四四・二%)と前年を大幅に下回った。

県内鉄鋼・非鉄金属(中小企業を中心)では、企業収益の悪化による建設投資の抑制、マンシヨン等の民間需要低迷、輸送用機械や

建設機械の在庫調整などから鋼材の出荷量が激減している。(福田)

石油・化学

1～3月期の国産ナフサ価格は、原油価格乱高下の影響を受け、二万七〇〇〇円/kl(前年同期比▲五九・五%、08年10～12月期比▲四八・三%)に急落した。

大手石油化学各社は、需要家のエチレン先安観による買い控えや、景気悪化に伴うエチレン需要低迷により、収益が圧迫されている先が多く、石油・化学の1～3月期の収益BSIは▲二九・六(前回比▲一・〇)と悪化した。

(古川)

農業・漁業

農業

1～2月の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が四万五五八t(前年同期比+二・六%)、平均単価が一三五円/kg(同▲六・五%)となり、出荷金額は五四・九億円と同▲二・七%減少した。

出荷量の増加は、主要野菜であるキャベツの出荷量が七〇七八t(同+二一・〇%)と前年を大幅に上回ったことによる。例年、秋冬キャベツは10月中旬に出荷が開始され、12月にピークを迎える

漁業

が、今年は08年秋口の低温・日照不足の影響で成育が遅れたため、出荷が2月上旬中に集中した。

(古川)

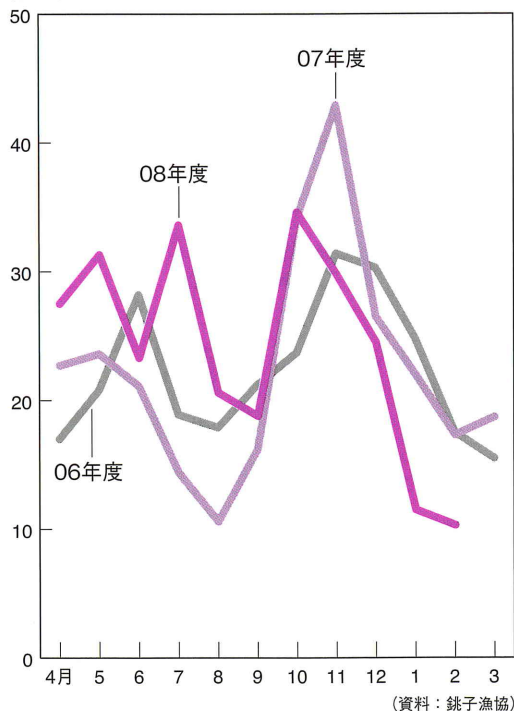
銚子漁港の1～2月の水揚げは、数量は一万九四五六t(前年同期比▲一九・四%)と減少し、単価も下落したため(08年1～2月：一六二・八円/kg↓09年1～2月：一一一・七円/kg)、金額が二一・七億円(同▲四四・七%)と前年を大幅に下回った。

勝浦漁港の1～3月期の水揚げも、数量(二四〇四t・前年同期比▲七・一%)、金額(一〇・五億円・同▲二三・八%)ともに前年を下回った。

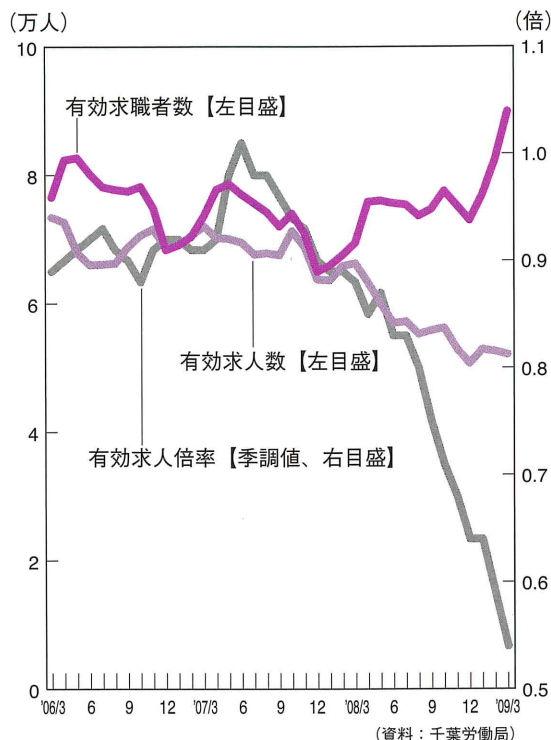
(古川)

銚子漁港の水揚げ額

(億円)



■千葉県内労働需給状況



雇用

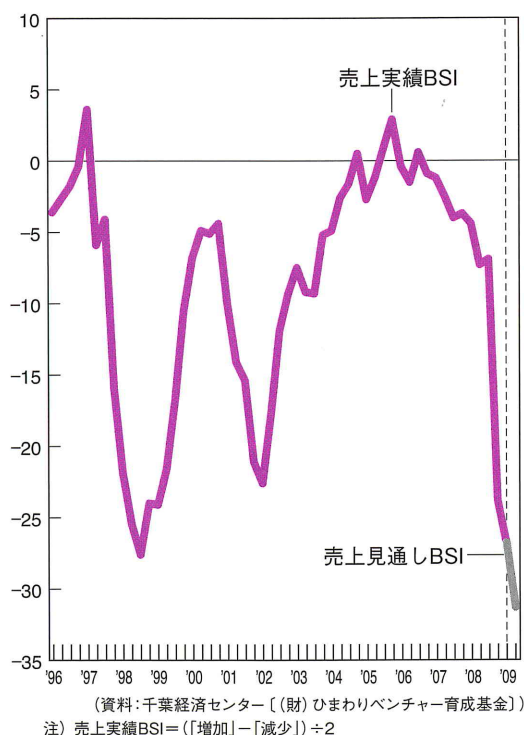
2月の千葉県の有効求人倍率(季調値)は、〇・五九倍と前月比〇・〇五ポイント悪化し、03年10月以来、五年四か月前の水準にまで低下した(08年12月…〇・六五倍↓09年1月…〇・六四倍)。

2月の新規求人数(原数値)は、前年同月比▲二八・六%と大幅に落ち込んだ。一方で、2月の新規求職者数(原数値)は、同十二七・三%の二万二〇六三人と大幅に増加している。

千葉労働局によると、製造業を中心に「雇い止め」が増加している影響などにより、09年2月の新規求職者のうち、事業主都合で失職した労働者が五三〇九人と前年同月(二四〇七人)の二・二倍に上る。同労働局では、「県内の雇用情勢は一段と厳しさを増している」としている。

製造業を中心とした需要の急激な減少に伴い、1～3月期の雇用BSI(全産業)は、▲六・九(前回比▲二・六)と2四半期連続で「過剰」超となるなど、県内企業では人員の過剰感が強まっている。(福田)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



企業経営動向調査(BSI)

1～3月期の県内企業の業況判断BSI(全産業)は▲二五・九と、前回(08年10～12月期)比▲六・四悪化し、9四半期連続で「悪化」超となった。このうち製造業は▲三〇・九(前回比▲八・三)、非製造業は▲二〇・三(前回比▲四・〇)とともに悪化した。また、製造業、非製造業とも全規模で悪化した。業況判断BSI(全産業)の▲二五・九は、02年7～9月期の統計開始以来最低の水準を3四半期連続で更新した。

収益BSI(全産業)は▲二四・〇(前回比▲二・四)となり、13四半期連続で「悪化」超となった。製造業は▲二八・六(前回比▲四・〇)、非製造業が▲一八・九(前回比▲〇・五)とともに悪化した。08年度設備投資実績額(全産業)は、07年度実績比▲二〇・九%の減少となった。期初計画比でも▲四・七%の下方修正となった。雇用BSI(全産業)は▲六・九(前回比▲二・六)と2期連続「過剰」超となった。先行きの雇用BSIは▲九・八(実績比▲二・九)と「過剰」感がさらに強まる見込み。(松本)